

東京都新宿区北新宿1-8-16  
 東京土建一般労働組合  
 電話03(5332)3971(代表)  
 FAX03(5332)3972  
 発行人・編集人  
 三木 勉

印刷部数11万1300部  
 (購読料は組合費のなかに含まれています)  
 (年間購読料 千八百円)  
 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

オスプレイ撤退  
 署名にご協力を  
 東京土建も加盟するオスプレイ反対東京連絡会が都知事あての「東京・横田基地からのCV-22オスプレイ部隊の撤退を政府に求める請願」を取り組んでいます。群一枚の目標です。ご協力ください。

政治・産業課題に関わる組織づくり  
 東京土建  
 第73回大会開く

団結して難局乗り越える

組織拡大と要求実現は両輪

東京土建は3月15日、「建設従事者の仕事と賃金と権利拡充へ、組織の拡大強化に仲間の力を結集させ、建設産業民主化運動と社会保障拡充運動を現場と地域で大展開しよう」をメインスローガンに掲げ、第73回定期大会を開催しました。今大会は新型コロナウイルス感染症対策で1泊大会を1日大会に変更し、本部会館と9ブロックに分かれた会場をライブ配信で繋いで議事進行しました。全体の参加者は代議員が308人、代議員以外の本部役員が19人、特別代議員が37人の364人でした。

大会は議長に金子昭二(三鷹武蔵野)、可兒美憲(練馬)、鈴木寛次(多摩・稲城)、書記長に吉川豊(文京)の皆さんをはじめとする諸役員を確保して始めました。



中村隆幸新委員長

冒頭、松丸委員長が中央執行委員会を代表して、仲間が一丸となって進めてきた昨年の取り組みを振り返り、今大会で決定された方針に向けて奮闘しようといささつしました。

新たに選出された新年度中央執行委員が紹介され、代表として中村隆幸新委員長が、変革的な大会になった中での協力的な言葉をかけました。その言葉に感謝し、退任役員には労力に感謝し、アップシステムなどが自分たちのものになるまで仲間の結束をたたく、仕事確保や命と暮らしを守る運動でも課題

質疑は事前通告制とし、質問・意見・要望が59本寄せられ、答弁のみ行ないました。分科会が開催できなかったため、各専門部から2020年度の重点方針のみ提案しました。(3・4・5面に掲載)

採決は画面を通して行ない、報告・提案と大会宣言・スローガンが採択されました。神奈川2陣訴訟が東京高裁でそれぞれ判決を迎え、最高裁に係っている神奈川、京都、大阪、東京、九州の1陣訴訟が秋から冬に判決が出ると推

た。(2面に掲載)  
 今大会には来賓は出席せず、95通の祝電・メッセージが寄せられました。  
 基調報告に立った小番書記長は5カ年計画最終年の2019年度の組織建設と現場改善など、取り組み経過と教訓を報告。2020年度の運動の重点として、政治課題・産業課題にしっかりと関わる組織づくりなど、4つの運動の柱を中心に組織づくりを実践すると強調しました。



9会場と結んで団結ガンバローを行なった(本部会館)

入廷行進を行なう第3陣原告団



3月24日、全国のアスベスト被害者・遺族は札幌、さいたま、東京、横浜の4つの地方裁判所へ一斉提訴を行いました。この日、東京地裁前では首都圏建設アスベスト訴訟統一本部が集会を開催。東京第3陣原告(東京土建16人、第1陣・2陣原告、弁護団、支援組合(東京土建、千葉土建、首都圏建設ユニオン、東建、東京建設)から85人が参加しました。

アスベスト  
 全面解決する年へ  
 東京第3陣原告が提訴

創設をめざすと勝利への決意を込めてあいつしました。弁護団の決意表明では、事務局長が、今年に首都圏では東京2陣訴訟が東京地裁で、

測される重要な年になる。最初に提訴してから12年を迎え、全面解決する年に第3陣提訴をしていくと提訴の意義を強調。4地裁への一斉提訴

表、木内共同代表、勝田共同代表が紹介され、代表として吉田さんがあいさつしました。集会終了後、第3陣原告団は1陣、2陣原告や支援組合

に見守られる中、入廷行進を行ない、東京地裁へ訴状を提出しました。

3陣原告の江戸川支部の川部進さん(電気)は「3年くらい前から健康診断で肺の疾患を指摘されていましたが、アスベストが原因だと分かったのは最近です。アスベストが危険だとは知っていましたが、自分が出ていってしまうとは思いませんでした。そこで皆さんと一緒に活動しようと思いを固めました。12年以上もかかる裁判はとんでもない」と話してくれました。

最後に団結カンパローを全会場の参加者が唱和し閉会しました。

は山積している、組織拡大強化と要求実現は車の両輪だと強調し、団結して難局を乗り越え、要求実現を勝ち取るよう決意表明しました。

また退任役員を代表して松丸委員長があいさつしました。(8面に掲載)

常磐線の富岡駅と浪江駅が開通し、マスコミも復興をアピールしている。しかし列車は帰還困難区域を通過しており、健康被害を懸念する声が上がっている。政府は汚染水処理では海洋放出もありきの判断をしているが、除去されないトリウムや他の核種による環境への影響を軽視している。環境省は汚染土を運び出す量を減らしたくて「再利用を目論んでいる。

■東日本大震災9周年追悼式が中止されるなかで出された安倍首相の追悼の言葉によれば、「世界の多くの方々に、『復興五輪』という言葉の今年のオリンピック・パラリンピックなどの機会を通じて、復興しつつある被災地の姿を実感していただきたい」という。延期となった「復興五輪」だが、相変わらず一貫して、福島県被害を見えなくさせて被災者支援を打ち切る方便になっている。

朝やけ  
 ■先日、国際環境NGO FOF Japanの満田夏花事務局長の講演を聞いた。講演の中心は「見えない化」される原発事故被害。富岡町在住の91歳の男性は、復興という掛け声だけで声高に叫ばれるが町には商店がなく、車の運転が出来なければ暮らせない。政府が2020年に避難者ゼロにするといっているが、それを聞くと自分たちの存在が消される思いになると語ったそうだ。